

■ちーびし

○執筆者紹介

- ①生年・出身地、②所属、③専門領域、
④研究業績、⑤奄美と関係した活動
の順番で掲載しております。

■山田 誠 (やまだ まこと)

- ① 1946年・香川県
② 鹿児島大学法文学部経済情報学科地域計画講座
教授
③ 経済政策、地方財政、地域政策比較
④⑤ 鹿児島大学プロジェクト「島嶼圏開発のグ
ランドデザイン」の研究代表者として、編著『奄
美の多層圏域と離島政策』九州大学出版会(2005
年)を刊行した。

■尾崎 孝宏 (おぎき たかひろ)

- ① 1970年・東京都
② 鹿児島大学法文学部人文学科比較地域環境講座
助教授
③ 社会人類学、牧畜社会論
④ 『セツェン=ハンの駿馬—モンゴルの馬文化—』(J. サロールボヤン著・尾崎孝宏編訳、礼
文出版 2000年)
「遊牧民の牧畜経営の実態：モンゴル国南東部
の事例より—文化人類学からみたモンゴル高
原」(『科学』73(5) 岩波書店 2003年)
"North and South Mongolia: A Comparison of
Two Mongolian Pastoralist Societies."(K. Ikeya
and E. Fratkin Eds., Pastoralists and Their
Neighbors in Asia and Africa, Osaka: National
Museum of Ethnology 2005年)
⑤ 今後も闘牛の研究を続けていきたいと思ってい
ます。

■桑原 季雄 (くわはら すえお)

- ① 1955年・鹿児島県
② 鹿児島大学法文学部人文学科比較地域環境講座
教授
③ 文化人類学、東南アジアの文化人類学
④ 「ヤップ島における観光化と伝統文化」『人文

- 学科論集』第54号、2001
『薩南諸島』共著、鹿児島大学多島研センター、
2001
「マレーシアにおける母系社会とジェンダー」
『人文学科論集』第52号、2000

■西村 明 (にしむら あきら)

- ① 1973年・長崎県
② 鹿児島大学法文学部人文学科比較地域環境講座
助教授
③ 宗教学、民俗宗教論
④ 『戦争死者慰霊の宗教学的的研究』(博士論文
東京大学大学院人文社会系研究科 2005年7
月)
「東アジア沿岸地域における闘牛をめぐるネッ
トワーク形成の現状」予備調査報告(尾崎孝
宏・桑原季雄との共著、『鹿児島大学法文学部
紀要人文学科論集』第63号 鹿児島大学法文
学部 2006年2月)
「沖縄、徳之島および宇和島の闘牛に関する比
較研究」(尾崎孝宏・桑原季雄との共著、『鹿児
島大学多島圏研究センター南太平洋海域調査研
究報告』No.46 鹿児島大学多島圏研究セン
ター 2006年3月)
⑤ 今年度から本研究科の奄美委員になりました。
よろしくお願ひします。

■永田 邦和 (ながた くにかず)

- ① 1972年・神奈川県
② 鹿児島大学法文学部経済情報学科経済システム
講座助教授
③ 金融論
④ 「銀行監督者の名声と過剰な銀行監督」、鹿児
島大学経済学会『経済学論集』2002年4月号
(通巻第56号)
「預金保険と銀行経営者のインセンティブ」、
生活経済学会『生活経済学研究』2005年3月
号(通巻第21巻)
「支払保証制度とソルベンシー・マージン規
制」、財団法人生命保険文化センター『生命保
険論集』第151号(2005年6月)
⑤ 2001年度から2003年度にかけて文部科学省科
学技術振興調整費「先導的研究等の推進」『循
環型社会システムの屋久島モデルの構築』プロ
ジェクト(中核機関：鹿児島大学)に参加。

○編集後記

■4月28日夕刻、誕生したばかりの奄美市で平成18年度奄美サテライト教室の開講式が開催された。式には、ご多忙中にもかかわらず平田奄美市長、宮野大島支庁次長をはじめ、地元の方々が多く参列して下さった。地元では、3月13日に鹿児島大学との包括連携協定の締結・祝賀会があったばかり。それに続く開講式で、地元の方々には、鹿児島大学が奄美との結びつきを深めているとの実感を強くもたれたのではなかろうか。

木部暢子研究科長は、あいさつの中で「奄美をフィールドにして研究してきた者たちが成果を地元に戻し、交流を深める機会をも与える」というサテライト教室の位置づけを提示した。開講式後の懇親会では、プロジェクターを使って『奄美ニューズレター』NO.26に掲載された科目等履修生・栄勝仁さんの「分権改革と離島の小規模校」の発表がなされた。また、2月に「徳之島サテライト分室」の協定調印がなされたばかりの徳之島町からも職員の方が出席され、開設準備を積極的に進める主旨のあいさつもあった。会場からは、「後期から科目等履修生になるぞ」との声も上がり、和気あいあいとした懇親会になった。

『奄美ニューズレター』を生み出した全学プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン」は、少なくない成果を上げて平成18年3月に終了した。新年度からは、包括連携協定を奄美市（締結時は名瀬市）と結んだという事情を契機に、大がかりな新プロジェクト「奄美の『島』コスモス創出事業—世界自然遺産登録にふさわしい島を目指して—」がはじまる。締結協定を実のあるものにしたとの学長の意向を受けた総合的なプロジェクトであるが、これまでのプロジェクト研究、サテライト教室の実績を踏まえれば、担い手の主力は法文学部・人文社会科学部になるであろう。（奄美委員会、山田）

<平成18年度奄美サテライト教室の開講式（4月28日）の様相>



■ 本号から奄美ニューズレターの編集担当になりました法文学部経済情報学科の山本です。よろしくお願い致します。奄美ニューズレターは鹿児島大学所属の研究者による調査研究成果や奄美群島区の地元研究者からの現地レポート等を掲載する季刊誌です。奄美委員会では、随時、投稿原稿を募集しています。本号表紙の写真は、沖永良部の前利潔（知名町中央公民館）さんからご提供頂いた、沖永良部島和泊町国頭フーチャ（潮吹き洞窟）、沖を泳ぐクジラ（ペンション・フーチャランドのオーナー、山本一男さん撮影）島竹に咲いた桃色の花（前利さん撮影）、黄金色のソテツ（川上忠志さん撮影、和泊町国頭の石原さん宅のソテツ）です。島竹の花は50～60年に1度しか咲かない大変珍しい花だそうです（『南海日日新聞』2006.2.26）。（編集担当、山本）

研究責任者 木部暢子
奄美ニューズレター
発行 鹿児島大学

編集責任者 奄美委員会
AMAMI News Letter
発行日 2006年6月30日